

論文様式

〔ふりがな〕 うちだ ただのり
〔氏名〕
内田 忠憲

受験番号	
------	--

(※欄は記入しないでください)

課題

- 現在の区行政の課題と、その解決策について（区長職）
 応募する所属（局）が抱える主な経営課題と、その解決策について（所属長職）

1 はじめに

区行政は地域住民の安全・安心の確保や困窮状況からの救済のため多種多様な業務を担っています。福祉全般・住民情報・選挙等の法令等に基づく幅広い業務は、各制度目的実現のため、正確・迅速かつ大量の処理を行うことが求められます。また、地域活動等の支援業務では、実情・要望をよく見て聴いて課題を抽出し、対応の可否を含め方向性を示し、取組を行うことが必要です。その前提として区行政が住民に寄り添うものとの信頼が欠かせません。

こうした区行政の特性及び私の区長経験を踏まえ、次の4つの課題項目について解決策を記します。

2 主な課題項目とその解決策

① 法令等に基づく各種事務の正確かつ適切な遂行について

区行政の大半は人権尊重の理念のもと福祉・公民権等の実現を使命としています。また、共同連帯の理念に基づく保険年金では適正管理とともに公平・適切な保険料徴収が必要です。こうした業務では内容・手順が法令等に詳細に規定され、膨大な事務の正確・迅速な処理が求められます。

習熟・確認不足などによる不適切な執行は、制度目的にそぐわず住民に不利益な結果を招き、区行政に対する信頼を貶めます。残念ながら各区役所とも毎年こうした事象が発生しています。

各業務の適切な遂行には限られた人的資源の中でDXの推進が必要ですが、その前提として担任業務の趣旨目的を含めた理解・習熟を深めることが欠かせません。担当内はもちろん上司・他担当にも平易な言葉で説明・実施できるよう、日頃から職場全体での取組の積み重ねが必要です。

区長として鶴見区役所ではこうした取組を実践し、不適切事案発生が着任前の状況から大幅に減じ、国民健康保険料収納率が本市内で1位となるなど成果に繋がりました。何よりも各担当が取組にあたり現状分析を踏まえ、制度趣旨を意識して議論を重ね成案化・実践することに努めてくれています。

担任区が変わっても、こうした取組は欠かすことができません。引き続き取組を進めてまいります。

② 地域各種団体・住民との協働について

地域に暮らす多様な年代・立場の「人と人とのつながり」を基礎とした地域コミュニティは、先達のおかげもあり、日常生活を安全・快適にする重要な要素となっています。

その形成・維持に長年役割を果たしているのが「町会」ですが、加入率の遞減が顕著となり、地域活動の維持が困難な地域があるほか、活発な地域も今後の危惧が見込まれます。

また、少子高齢化などの社会情勢の変化、自然災害や大規模な感染症などの発生リスクに対応するべく、地域コミュニティを軸に防災・防犯・福祉・保健・医療・教育などの分野とのこれまでの取組に加えて新たな創意工夫も必要となっていきます。

脈々と亘る地域コミュニティの維持発展には、持続可能な町会活動が必要です。その助けとなるよう本市戦略や区アクションプランに則り町会加入促進に向けたサポートを推進します。

こうしたことへの即効薬はなく、実効性ある協働を実現するべく、地域等での会合・イベントなどにも区役所が積極的に関わり課題共有の感度を高めるとともに、課題解決のための相談・検討を担当内のみならず区役所内外で闊達に行い、知見を集約して合目的・妥当な対応を実践することが必要です。

鶴見区ではこうした積み重ねを経て地域各種団体・住民からの理解・信頼を厚くするとともに、課題解決に皆であたる気風を醸成し取組を実行しました。こうした取組を地道に着実に進めてまいります。

③ 安全・安心なまちづくりについて

既定の防災対策の徹底に加え、新たな課題にも的確に対応できるよう取組を進める必要があります。近年策定を進めている個別避難計画を踏まえた避難行動要支援者の避難や医療介護等の活動主体との連携対応などが実効性を担保できるよう、訓練や防災計画の検証などを進めます。地域と連携した防災教育・研修を通しての習熟や人材育成などは災害時などの有事に即応できるものとなります。また、交通安全・防犯についても時機に適った啓発を通して危険発生を未然に防止することが大切です。

④ 区役所が住民にとって相談しやすい環境・雰囲気であることについて

区行政の円滑な実施には住民の理解・信頼が欠かせないところであり、相手の心に届く接遇の心掛けとともに、傾聴など住民に寄り添った真摯な取組の徹底が必要です。

私の経験から大切に感じていることは、法令等の各種制度の理解・運用はもちろん、住民や職員の方々から質問を受け、議論し、また雑談する中で、それが「業務での課題」、「まち全体の課題」かもしれないと思ったらそれを「膨らませていく」のが肝要ということです。「まだモヤモヤしている段階から関与」するべく、調べ、考え、課題認識等の共有のため「外」へも出ていくことが大切です。

こうした姿勢から醸し出されるものが相談しやすい環境・雰囲気につながっていくものと考えます。

3 おわりに

「誰もが住んでよかったです」と思えるまちづくりは一朝一夕では実現できません。うまくいかないこともあります。失敗を次への糧とし、これまでの知見を活かし、新しい様々な動きに関心を抱き、不斷に検討を重ねながら、地域に根ざした息の長い取組を地域住民や区役所職員の皆さんと着実に進めて参ります。こうしたことを通して区行政と地域社会のニアイズベターの推進、更には全市的な施策展開にも貢献できるものと考えています。

(2200文字)